

# 学力向上だより No.4

山都小学校 2015.5.1

## 「勉強しなさい」

この言葉は、家庭の中でよく発しているのではないのでしょうか。子ども時分にはよく親にこの言葉を浴びせられた人も多くいるのかもしれませんが。

では、この言葉の効果はどうだったのでしょうか。

私自身の経験では、その場しのぎに机に向かったような気がしますが、心の内から勉強しようという気持ちにはならなかったように思います。

とある調査でも、同じような結果が出ていました。母親の声かけがあるグループと、ないグループでどれだけ子どもの学習時間に差ができるかを調べたものでした。結果としては大きな差はなかったということです。（学習時間が学力向上へ直接結びつくとは限りませんが）

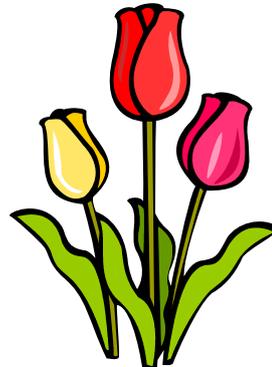
ということは、実はこの「勉強しなさい」という言葉では、子どもの学習へは結びつかないということになります。

では、何が効果があったのでしょうか。

こんなデータありました。

- **将来や進路のことを話す親子は、小1で5割弱→中3では9割以上**

小学校の段階でも将来について親子で話し合っています。それは学年が上がるごとに、進路も含めて将来の姿について話をする割合が増えていきます。小1では約5割弱なのですが、小6で8割、中3で9割以上となります。



- **親子で将来や進路について話をするほうが、学習時間は長い。**

将来についての親子の会話のある集団とそうでない集団に分けて、家庭での学習時間について調べてみると、会話のある集団がどの学年でも勉強時間が長いのです。特に小4以降はその差が歴然として、小4～小5では20分前後、小6では30分以上の差になっています。

中学生でも同様で、中1～中2は20分弱、中3では30分以上の差と、受験の前にさらに差がつく傾向があります。

このことから、やはり将来の自分の姿の見通しを持つことが意欲的な学習に結びついていくようです。夢も見なければ、夢は叶わないということでしょう。（文責 教頭）